

科目名	健康・医療心理学			担当教員	成田 絵吏	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2SPS315
期待される学修成果	教科教育 子ども理解					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	臨床心理士・公認心理師					
実務経験を生かした授業内容	臨床心理士・公認心理師としての勤務経験を活かし、医療やその他の対人援助場面において望まれる支援について講義する。					
到達目標及びテーマ	公認心理師、心理的支援に関係する職業に求められる健康・医療心理学についての基礎的な知識を習得し、望まれる支援の在り方について考察することができるようになる。					
授業の概要	健康・医療心理学の基礎的な知識を学び、健康保健や医療分野において求められる支援とは何か自ら考察する。また、対人援助職としての姿勢を学ぶ。 【デジタル技術利用：①，⑧】					

授業計画	
第1回	健康とは何か
第2回	ストレスに関する基礎理解
第3回	ストレスと心身の疾病との関連、健康づくり
第4回	医療領域における活動の基本、法制度
第5回	心療内科、精神科領域における心理社会的課題と支援
第6回	成人期における心理社会的課題と支援
第7回	小児、思春期における心理社会的課題と支援
第8回	高齢期における心理社会的課題と支援
第9回	さまざまな医療領域における心理社会的課題と支援
第10回	保健活動に関する基礎理解
第11回	母子保健領域における心理社会的課題と支援
第12回	産業保健領域における心理社会的課題と支援
第13回	さまざまな保健活動の領域における心理社会的課題と支援
第14回	災害時における心理に関する支援
第15回	まとめ

事前学修	2時間	次回の講義内容をめぐって知っていること、イメージをまとめ、書籍やインターネットなどを用いて調べる。また、授業前に資料がある場合はそれを熟読する。
事後学修	2時間	講義の内容をふりかえり、重要点や自分の考えをまとめる。自分が関心を持ったキーワードなどを調べて理解を広げる。
フィードバックの方法	講義内容や小課題（授業中、もしくは講義終了時に提出するふりかえりシート等）について、希望があればフィードバックの機会を設ける。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	20%	授業内に課す小課題への取り組み
定期試験	80%	基礎的な知識の習得、理解、考察

補足事項	・毎回の授業ではQRコード等を用いて小課題を出してもらうため、スマートフォン等を持参する。また授業内に行うワーク（個別・グループ）について積極的に取り組み、特にグループワークにおいては活発な議論を期待する。 ・試験は大学の定期試験実施期間に行う（16回目に該当するが、日時等変更の可能性はある）。試験に際して大学の履修要覧等の記載事項を守り、欠席回数が全授業数の3分の1を超える、試験当日の試験開始20分以上の遅刻は受験を認めない。
------	---

教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
特になし プリントを配布		なし	なし	なし	なし
参考資料		講義内で適宜紹介する。			